

共生・公正・創造



ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

【虚構からの訣別を図るべき時期に到達したJ R 東日本！ シリーズ8】 小説・労働組合の一つの読み方、党中央は福原・嶋田側！？その

「大量脱退の真相」（11月17日 革マル派発表文書）

【J R 総連一部ダラ幹とJ R 労研幹事会中央事務局の一部指導部が結託して仕組んだ今回の九州労破壊を、われわれは満腔の怒りをこめて弾劾する。この前代未聞の労働組合組織破壊が、驚くべきことにJ R 総連委員長・小田、同書記長・山下、J R 九州労委員長・北、J R 労研中央事務局の一部指導部（代表・大方、事務局長・南雲、黒潮、飛田）の7人が仕組んだものであることを、われわれは暴露する。わが党は、全国のJ R 総連組合員に、そしてJ R 労働運動の中核部隊としてたたかいているJ R 各単組の労研の諸君に対して、破壊された労働組合組織の再建の闘いに、そして腐敗し変質したJ R 労研中央幹事会事務局の一部指導部をのりこえJ R 労研の再創造の闘いに敢然と決起することを訴える。明るみに出された九州労からの大量脱退 = J R 総連破壊の真相は次の点にあるといえる。

9月上旬に、J R 総連委員長・小田、同書記長・山下、J R 九州労委員長・北、労研中央事務局の指導部が密談して「養殖潜り込み」という方針の最後の腹構えを決めた。だが、9月中旬には、この「潜り込み」方針を急遽、「養殖へのなだれ込み」という方針に転換した。 - 中略 -

かくして北・杉山・狩生らの九州労のダラ幹どもは、10月1日から6日にかけて脱退4人組指導部（小椿、谷川、内川、一万田）を衝立にして、基本的に九州労の全組合員を「養殖組合」に「なだれ込ませる」という前代未聞の反労働者の行為をやったのけた。その際に彼らは、1～2年後には定年退職するメンバーや、特定のメンバーおよび残存執行部を九州労に残し、残務整理にあたらせるということをも、脱退劇の陰謀・策略を隠蔽するという観点から実行したのであった。

右のことについて、九州労のOB会には、事の真相を「伝えない」、ということをも、北らの残存執行部は決めていたのである。

このような実体的構造からして、小田・山下・北らのJ R 総連のダラ幹と大方・南雲・黒潮・飛田らの一部労研中央幹事会事務局メンバーが、九州労を崩壊させようとしてきた中心人物であることは歴然としている。 ...】

<「九州労事件」の責任者は誰か！？>についての党革マル派の公式見解は上記の内容が全てである。そしてこれは今日においてもそのままである。この革マル派公式見解の重要な特徴点として、次のものが挙げられるだろう。

党中央は最初から「松崎氏は総べてあずかり知らぬこと」、「松崎氏には全く責任なし」のスタンスに立っている。

加えて党革マル派は、九州労4人組の言辞と行為を、「4人組は言う J R 東労組会長は組合組織運営において「独善的」である、と。これはみずからのクーデターを正当化するためのいいがかりにすぎない」「...人非人であるからこそ、こうした言辞を吐きうるのだ。...」「J R 東労組会長に対して『独善的組織運営、引き回し』という中傷をあえてした裏切り者四人組...」と糾弾することで、J R 総連・東労組最高指導者としての松崎氏に満腔の敬意を表し、また、明らかに松崎氏を擁護している。

《国鉄改革の完成に向けて（宗形明著）200ページ～202ページより抜粋》